

パワハラ 防止指針クイズ

労働問題ケーススタディ
紙芝居

労働問題マンガ教材

ファミレス



Aさん

こちらは、とあるファミレスに勤務するAさんです。Aさんは、元々、とてもマジメな性格で、素直な頑張り屋さんでした。

しかし、ある意味真面目過ぎる面もあり、不器用なところもあって、Aさんの同期がどんどん出世して行ってしまった状況に、焦りを感じていました。

そんな中、ようやくAさんも出世して、とあるファミレスの店長に就任することができました。

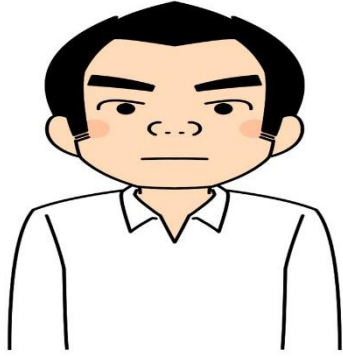


『やったー、僕も、やっと、お店の店長になれたぞ。うれしいなあ、ますます、仕事がんばって、お店の業績あげるぞー、がんばるぞっ。少しでも早くライバルの同期に追い付いて、さらには追い抜いてやりたいからな。』

よーし、僕が店長になったからには、どんなお店にしようかな？』



『そうだ、やっぱり、学生時代の部活のように、なんでも腹を割って話し合えて、どんなことでも情報共有しながらみんな頑張りまくる、そんなお店にしたいな。とすると、大事なのは毎日コミュニケーションたくさんとることが大事だな。よし、がんばるぞ』



B君

こちらは、アルバイトのB君です。
ちょうどB君が出勤してきたところでした。

『あ、A店長、おはようございます。本日も宜しくお願いします』



Aさん

『おー、B君、おはよう。今日もよろしくね』

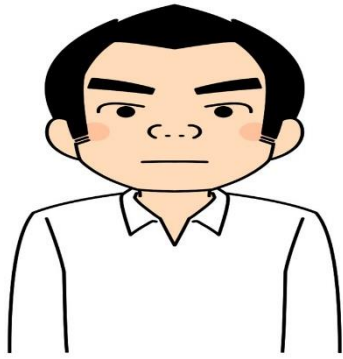
このとき、A店長は、B君がいつもより少しだけ、元気がないように感じました。

『あれれ、なんだか、B君、いつもはもっとハキハキしていて、大きな声で、「ありがとうございましたー」っていうのに、なんだか、ちょっとだけ、いつもと違う感じがするなあ』

このように思ったA店長は、B君に声をかけてみました。

『B君、今日もおつかれさま。今日もがんばってくれて、ありがとね』



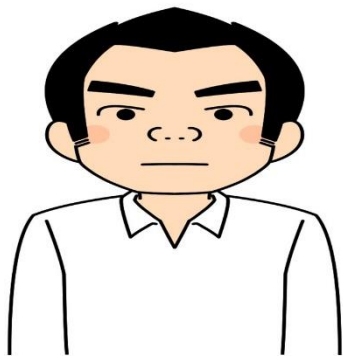


B君

『あ、A店長、おつかれさまです。今日もありがとうございました』



『B君、調子はどう。B君もだいぶ仕事に慣れてきたよね。B君の明るさは、お客さんに、とてもウケ良いよ。ありがとね』



B君

『あ、はい、そういってもらえると嬉しいです。ありがとうございます』

このように、Aさんは元々、体育会系ということもあって、後輩想いで、面倒見がよく、後輩の良いところを見つけて声をかけてあげることを、自然とやっていました。



『あれ、B君、なんかさあ、ちょっとだけいつもより疲れているような感じがするんだけど、大丈夫？なにかあったのかな、なにかあったなら、話してみてくれない？』



『え、あ、わかりますか？店長ってすごいですね。実は、長い間付き合っていた彼女に振られちゃったんですよ』



『あ、そうだったの、それは辛いね。そういうときって落ち込むよね。おれもそうだったなあ。だれしも落ち込むときってあるよね。落ち込まない人なんていないよね。オッケーオッケー、そういうときは無理しないで良いからね』



『あ、そうだ、B君焼き肉好きだから、もうこんなときは美味しいものでも食べて気分切り替えるのも良いかもね。なんだったらもうオレ、B君に、高級焼き肉店ジャジャエンの豪華特上カルビ・ロース3時間食べ放題コースおごるから、いつでも言ってね』



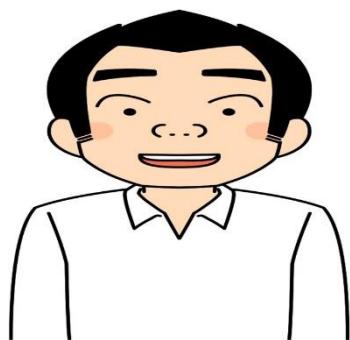
『A店長、まじっすか、めっちゃ嬉しいっす。一人ですごい落ちこんでたんですけど、そんなふうに気を使ってもらえて、自分、めっちゃ嬉しいっす』

焼き肉店

こうして、二人は高級焼き肉店ジャジャエンの豪華特上カルビ・ロース3時間食べ放題コースを食べに行き、AさんはB君の話をじっくり聞いて寄り添って、B君を励ましてあげました。

それから、翌日のことです

『A店長、昨日はご馳走様でした。焼き肉最高においしかったです。もうおもいっきり元気出ましたんで、今日は仕事頑張りまくります』

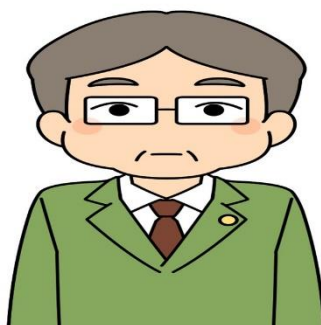


『B君、それは良かった。私も元気なB君を見られるのが嬉しいよ。今日もがんばろうね』



このとき、Aさんは内心、こんなふうには思っていました。

『やっぱり、コミュニケーションたくさんとるって、大事だなあ。B君、そういう事情があったのかあ。B君の変化に気づいてあげられて、良かったなあ。人を応援できるとなんだかこっちが嬉しい気持ちになるなあ。不思議だなあ。また困ってる後輩がいたら助けてあげたいな』



Ｃさん

それから、またある日のことです。こちらは、Aさんの会社の取引先のCさんです。このCさんは、今後の仕事に関する打合せと、親睦を深めることをかねて、AさんとB君を懇親会に誘う連絡をしました。

そして、AさんとB君、Cさんの三人で懇親会に行きました。

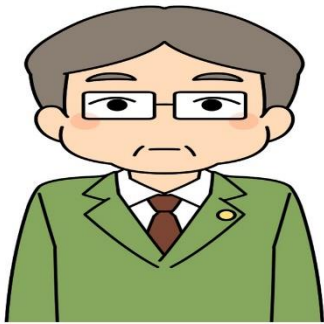
お酒の勢いもあって仕事の打合せが盛り上がり、意見交換もヒートアップしてきたその時のことです



『グビグビ。いやー、このお店のお料理とお酒
すごい美味しいなあ。すごい飲んじゃったわ
ー』

『あー、そうだ、B君、君ねえ、もっとお客様の
気持ちを推測して自分から先手を打って動
けるようにならなきゃだめだよ

その点、Cさんはすごいんだ。私が入社した
ときから、ド新人だった私にもいつもCさん
は声をかけてくれて、落ち込んでいるときと
か、いろんな話をしてくれて、今までずっと助
けてくれたんだ』



Cさん

『いえいえ、なにをおっしゃいますか、Aさん
こそ、いつもわが社を使ってくださって、助け
てくださっていたのはAさんですよ』

『いやいや、B君、君ねえ、君もCさんのよう
にならなきゃだめだよ』



『は、はい、わかりました、がんばります』



『まあまあまあまあ、Aさん、もう今日は結構酔ってませんか。いつもはほんと後輩想いの素敵な上司なんですから。お説教ぽくなっちゃうのは良くないし、今日は楽しく飲みましょうよ。あー、そうだ、それに、最近は、すぐなんでもパワハラだとか言われちゃったりして怖い時代になったんですよ。それに、お酒は楽しくが大事ですよ』



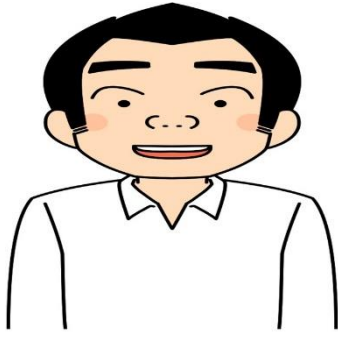
『いやー、私はまだまだCさんのすごさをB君に教えたいんです。私はものすごいCさんにお世話になったので、言いたいです。それにB君はすごいがんばり屋だから、ますます伝えたいんです。』



『それに、ここは会社じゃないから、パワハラとか、関係ないです』



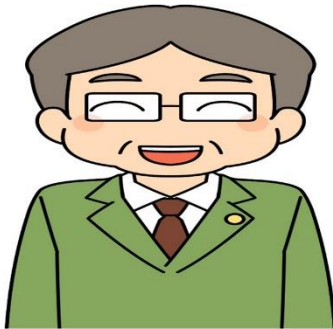
『まあまあまあまあ、Aさん、おだやかに、おだやかに』



『いえいえ、私もCさんのお話お聞きしたいです。むしろこのご時世、本音で指導してもらえる機会って少ないので、むしろ、ぜひ』



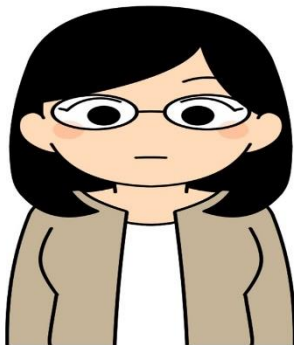
『Cさん、聞いてくれましたか。このように、B君は若いのに、こうやって何でも自分の糧にできちゃうすごいやつなんですよ。驚きましたよ。自分の若い時と比べ物になりません。すごいんですよ』



『うーん、たしかに、今日お話しているこの時間だけでもBさんってすごそうな人だなあって思いました』

このようにして、懇親会はますます盛り上がりました

それから、また、別のある日のことです。



D子さん

こちらは、派遣社員で急遽、店舗の応援に入って来たD子さんです。

『どうも、はじめまして、D子と申します。よろしくお願ひします』



『あ、どうも、店長のAです。この度は、応援で入ってきてくださって、とても助かります。よろしくお願いします』

- お皿を割る
- 注文を忘れる
- クレーム
- 遅刻、無断欠席

ところが、このD子さん、元々接客業の経験が無かったという面はあるものの、お皿を割ってしまったり、注文を忘れてお客様を長時間待たせてしまってクレームになったり、遅刻・無断欠席を繰り返したりするトラブルメーカーでした。

そのため、対応のためのコストも増えてしまい、お店の業績も下がってしまいました。



そのため、最初は粘り強く我慢していたAさんも、最後の最後には堪忍袋の緒が切れてしまいました。

Aさんは、D子さんに対して、かなりの大声で叱りつけたり、Dさんが話しかけても不貞腐れたような態度を取ったり、最後には無視するようになってしまいました



これを見かねてB君がA店長に話しかけました

『A店長、D子さんへの対応、大丈夫ですか。お店の業績が下がっているのはやばいですけど、最近って、どんなことでも被害者がパワハラって言ったらパワハラになっちゃう時代じゃないですか？』



『えっ、ええっ！！いやいや、それは違うだろ。先日、私が本部で受けてきた研修でも、被害者がパワハラって言えば何でもパワハラになるわけじゃないって、言ってたぞ』



『えー、ホントですか、よくわかんないですけど、自分はA店長がなにか本部から怒られたり、処分されたりしたら嫌だなんて思いました』



『大丈夫だよ。それにD子さんは、派遣社員だから、派遣会社の社員であって、うちの会社の社員じゃないんだから、パワハラにはならないだろ』



『えー、ホントですか。よくわかんないですけど』



Eさん

それから、しばらくしてからのことです。
こちらは、Eさんです。Eさんは、本部の管理者の一人であり、立場上はAさんの上司にあたり、A店長の店舗の人員強化のためにA店長の店舗の配属になった人財です。

『A店長、はじめまして、本部から来たEです。Aさんのサポートのために来ましたので、よろしくをお願いします』



『あ、はい、よろしくをお願いします』



このとき、Aさんは内心、こう思っていました。

『あー、このEさん、おそらく、私の悪い所をみつけて処分するために本部から来たんだろうなあ。やりづらくなつたなあ。まったく。なんとかして、早くいなくなってくれないかな』

実は
Aさんを昇格
させる予定

しかし、実は、本部は、秘密裡に、Aさんの店舗のスタッフの聞き取りをAさんに内緒で行ったところ、スタッフ全員がAさんをかばったことから、本部はAさんの人柄を高く評価しました。そして、今後、Aさんを管理者・マネージャーとして昇格させる予定で、Aさんの現状の確認とAさんの人財育成のためにEさんが来たという事情がありました。

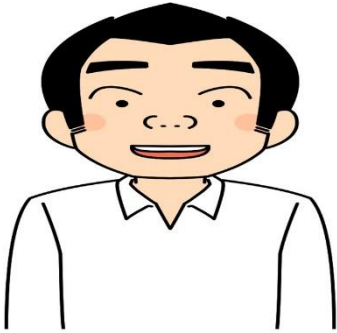
うまくいけば、Aさんは本部の管理者・マネージャーに昇格させ、その間、店舗運営をEさんが担当する予定になっていました

そんな中で、ある日のことです。

『B君、おつかれさま。ちょっと良いかな。最近、Eさんが本部から来たけどさ、Eさんの仕事ぶりってどう？』



『Eさんですか、そうですね、穏やかで、優しい感じで、良いと思います。ただ、本部の人なんで、やっぱり現場に慣れてないみたいで、料理作るのがちょっと遅いんですよね。あと、結構、お皿割っちゃってますね』



『あ、そうなんだ、料理遅いと困るよねえ。混んで来ちゃったら、本当だったらお店に入れたお客さんも入れなくなっちゃって、売上が下がっちゃうよねえ。

あと、うちはお皿も良いお皿使ってるから、割られるとまたコストかかっちゃうのになねえ。本部の人なのに、困ったもんだよね』



『そうだ、B君さ、Eさんが料理遅いときとかさ、お皿割ったりとかさ、なにか起こしたら、それをほかのスタッフにも情報共有しておいてほしいんだよ。

なんだったらもうあることないこととかも尾ひれをつけたりしちやったりしてさ。

こういうのって言ったもの勝ちなところあるしさ』



『えー、それはまずいっすよ。それこそパワハラっぽくないですか？』



『何を言ってるんだよ。立場上、俺たちはEさんの部下なんだから、パワハラになるわけがないじゃないか』

クイズ

さて、ここでクイズです。以上のこの物語、どこに、どのような問題があったと思いますか？

<参考>

パワハラ防止法改正に伴い、公表されたパワハラ防止指針を題材に、ポイントとなる部分のクイズをマンガ形式でご紹介しました（この物語は制作時点の情報に基づくものであり、法令改正・判例変更等の可能性がありますので最新情報をご確認ください）。